

# 日本の医療・福祉・住宅政策の 失敗と希望

ジャーナリズムとアカデミズムの関係性を念頭におきながら

ゆきさんの示唆に呼応して

高橋紘士（ひろし）

E-mail: [htakamac@icloud.com](mailto:htakamac@icloud.com)  
<https://www.facebook.com/htakamac>

2026年6月18日 乃木坂スクールにて

# 「ホスピス型」住宅をどうみるか

市川記者の報道をテーマとした前回の講義によせて

## • ジャーナリズムの眼

- 長期療養、ターミナルケアの場が儲け主義によって侵食されてきている。
- 公的制度の悪用・一方で医療的ケアが必要な人々が医療機関から追い出され行く場がなくなっている。その狭間を悪用した、事業者の跳梁跋扈

## • 地域の現場からの見方

- 地域の事業者にどのように処するか。
  - 動物園型・ジャングル型・そしてサファリ型（笹井肇著 後述）

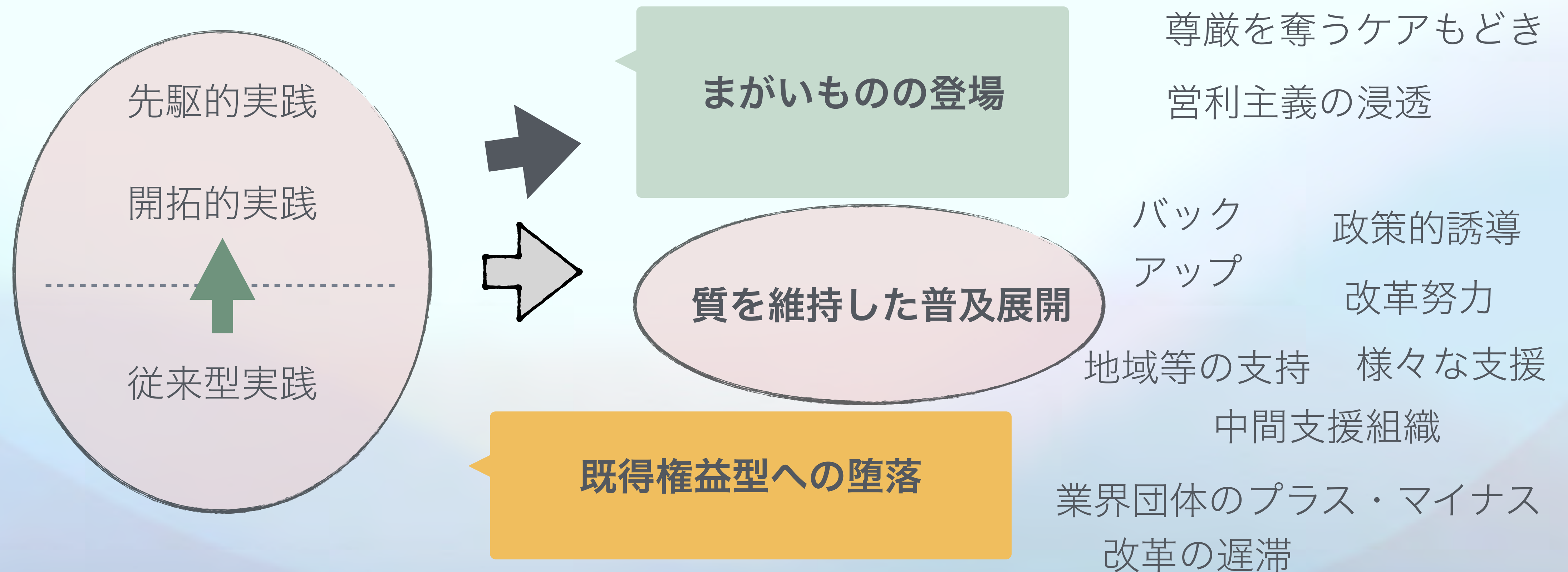
## • アカデミズムの眼

- 現物給付・現金給付の関係の社会保障論の高度な応用問題（権丈善一教授の示唆から）
- 需要と供給の不整合をはじめとする。準市場型供給構造の失敗 欲深事業者の排除の方法はあるか、ニーズ充足のための供給量と質の確保問題

# 従来型事業から先駆的開拓的実践への転換とその帰結

ジャーナリスティックな視点・アカデミックな視点・ポリシー指向の視点

『誇り・味方・居場所』（ゆき）を実現できる実践とは



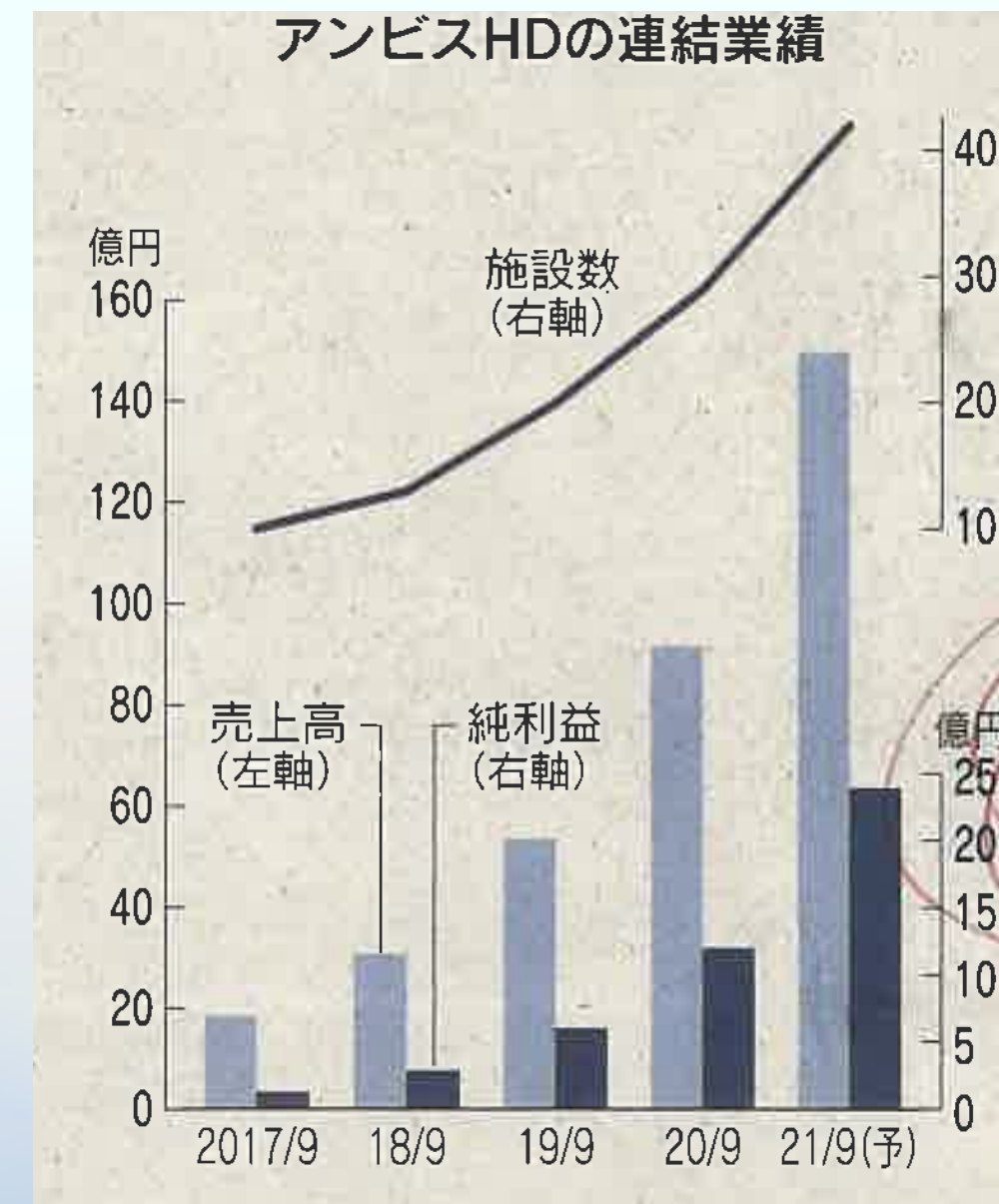
# いわゆるホスピス型住宅の現実・制度の失敗について

## 日本経済新聞の記事と田村プランニングの資料

主な緩和ケアホーム(重度医療対応/パーキンソン病対応ホーム)事業者

	ホーム数 (ヶ所)	うち住宅型 (ヶ所)	戸数 (戸)	平均規模 (戸)	平均最多居 室面積(m <sup>2</sup> )	60ヶ月入居時平均 月額費用(円)	主なホーム名
(株)アンビス	107	106	5,395	50.4	14.1	114,697.2	「医心館」
(株)スタッフシュウエイ	40	40	1,452	36.3	14.1	89,407.4	「アクアホーム」
(株)サンウェルズ	39	39	2,116	54.3	13.9	150,366.7	「PDハウス」 ※パーキンソン病対応
(株)スーパー・コート	37	17	2,554	69.0	17.5	146,959.3	「スーパー・コート」 ※パーキンソン病対応
ファミリー・ホスピス(株)	36	34	1,210	33.6	16.7	149,963.2	「ファミリー・ホスピス」
(株)シーユーシー・ホスピス	26	26	1,174	45.2	14.0	144,084.9	「ReHOPE」
(株)AT	18	18	626	34.8	13.2	112,583.2	「医療対応住宅 ケアホスピス」
(株)夢眠ホーム	14	5	586	41.9	16.2	94,391.4	「夢眠」
(株)IWASAKI	10	10	895	89.5	14.2	90,900.0	「ナーシングホーム」

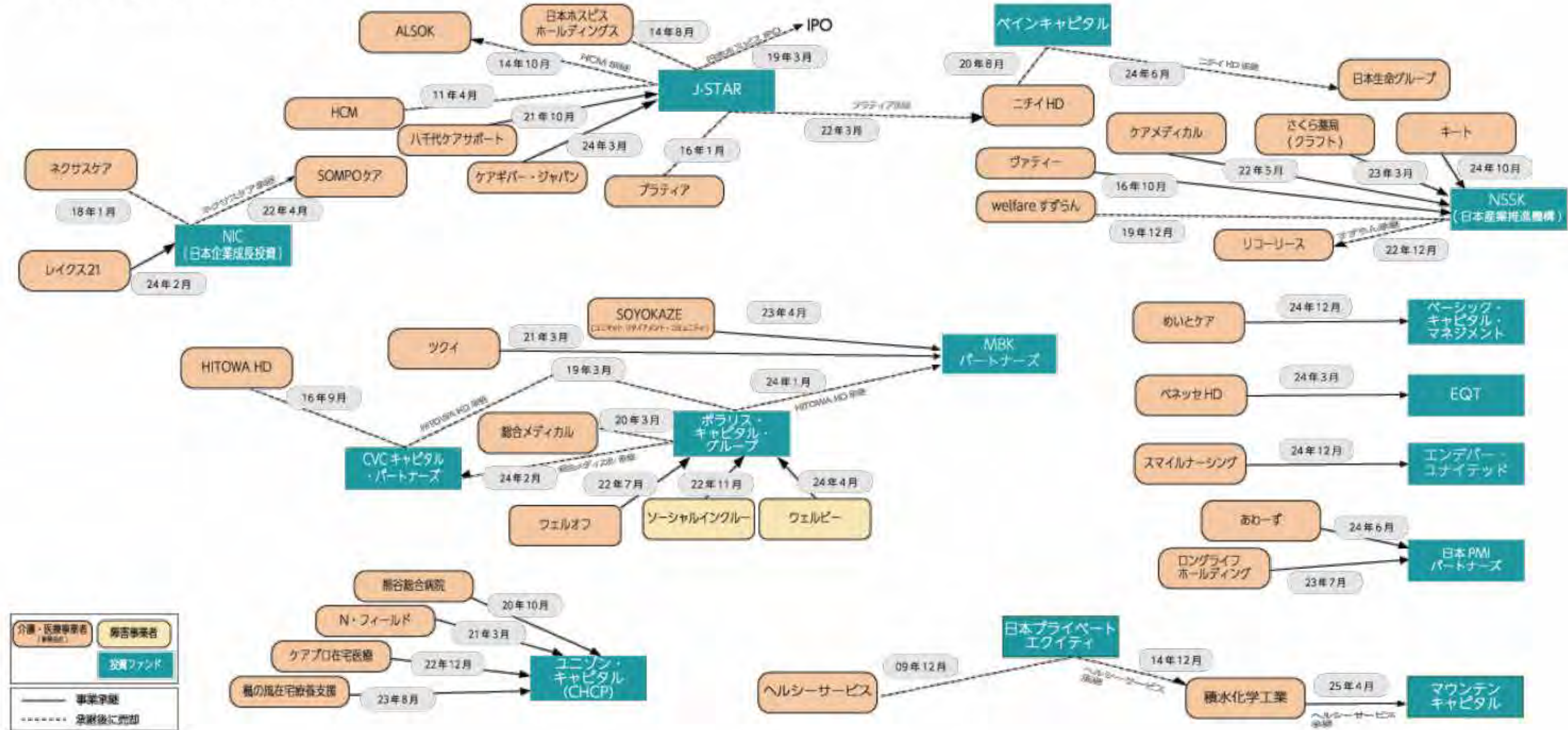
入居費10万円から15万円を抑えるために、診療報酬と医療報酬を不適切請求して略取する



入居者の世話をする「医心館」の看護師と介護士

# 医療介護福祉事業への投資ファンドの進出が意味するもの

## ■近年の主なファンドの動き



編集部で独自に作成

社会サービス（医療介護福祉そして住宅など）の  
あるべき姿を求めて

～或る社会学者の歩みから～

# 我が修行時代

- 学部時代 清水幾太郎という先生 社会科学全般の基礎教養とジャーナリストのセンスに触れる
- 大学院 東大闘争に遭遇、大学という組織への疑念と学生運動というものの党派性
- 特殊法人社会保障研究所へ 大学闘争の余燼さめやらぬときに研究所からの誘い
- 東大での社会調査の経験 東京都の委託調査、生活構造研究の報告が就職のきっかけ
- 調査をつうじてリアリティに接近することが可能な時代だった→現代は？
- 当時の研究所 山田雄三、馬場啓之助という碩学の経済学者・多様な社会保障研究者・厚生省官僚出身者などなど。多彩な人脈に接することができた。

# 社会保障研究所時代

1971（昭和46）年～1984（昭和59）年

- 三浦文夫研究部長のもとでの、福祉サービス研究
- 全国社会福祉協議会 永田幹夫氏と三浦部長が組んだ社会福祉改革への仕掛けづくりに立ち会う
- 措置・施設福祉時代の福祉サービスの克服と転換～社会福祉転換論
- 「在宅福祉サービスの戦略」のための研究
- 上記のフィールドスタディとして、福岡県春日市社協の調査研究を担当・同会長本田義信氏に知遇をえて、彼からの聞き書きを元に、「しあわせへの挑戦」を全社協出版部から上梓。
- 春日市社協の実践に着目したのが、ジャーナリスト大熊由紀子さんでした。お陰で在宅福祉分野から初めて朝日社会福祉賞を受賞されました。（1987年）

# 大学への移籍 1984（昭和59）年～

## 大学という場を活かす

- 特殊法人社会保障研究所はもともとの自由闊達な研究環境がより監督官庁の意思を忖度して、ある意味息苦しくなっていた。とりわけ三浦研究部長を始めとする研究部長が大学に転出して、その傾向が著しくなった。
- 社会保障研究所は後に特殊法人の整理統廃合を受けて、現在の国立社会保障・人口問題研究所に編成替えになった。
- そのなかで法政大学社会学部に転出することになった。当時の稲上毅教授の推薦であった。
- このころから、自治体の政策立案にも関わるようになっていった。1970年代以降も革新自治体の衰退にともない福祉政策の再編が進行する少子高齢化のなかで求められた。
- とりわけ東京都は美濃部革新都政を受け継いだ鈴木俊一知事（1979年～95年在任）のもと福祉政策の再編がはかられ、三浦文夫社会福祉審議会会長のもとで政策の再構築がはからられた。
- そのなかで、私に関わったものとして印象的なのは、「地域福祉振興基金」の創設であった。1983年検討、87年発足  
立岩真也の評価 <https://www.arsvi.com/ts/1992a12.htm>

# ジャーナリズムとの接点から始まるパイオニア実践との接点

## 大学では自由な活動が許される（当時）

- 新聞へのコメント
- テレビ出演 なるほど経済への頻回の出演
- クローズアップ現代の経験（NHKONEで視聴可能） 国谷裕子 さん ジャーナリズムの本懐を体現している人と出会うことができた。
  - <https://www.web.nhk/tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/LJXZ1L13MQ>
  - <https://www.web.nhk/tv/an/gendai/pl/series-tep-R7Y6NGLJ6G/ep/MZG1Y1W522>
- 地域との関わり 47都道府県での仕事、研修会、講演
  - NHK宮崎の記者からの問いかけ→ホームホスピス宮崎の発見
  - ある日NHK宮崎からの電話 民家活用のターミナルケアの活動が始まっているのだが？

# 全国社会福祉協議会研究情報センターでの活動（1991年～）

- 介護政策国際比較フォーラムと月刊福祉編集委員
- 委託研究の実施 時間貯蓄の研究（堀田力氏の提唱の政策的吟味）、成年後見制度のあり方の検討（「高齢者の権利擁護システム」として刊行）
- 社会福祉情報研究の着手 情報公表システムの準備、ワムネット構想など
- ジャーナリストとの交流会の主宰。ゆきさんは熱心に参加していただいた
- 横浜市生活あんしんセンター構想（横浜市社協設置）その後、運営委員会座長に就任。

# 地域包括ケアをめぐる実践の発見と関わり

- 山口昇医師との交流と協業→『市民参加と高齢者ケア』1993年 長寿社会総合講座 後述
- 2003年高齢者介護研究会「2015年の高齢者介護」での「地域包括ケアシステム」の政策概念としての採用。これ以降国の政策の協働概念となっていく。
- オーム社地域包括ケアシリーズ 「地域包括支援センター実務必携」 「地域包括ケアシステム」 「地域連携論」の編集・各地の実践者と政策施策担当者そして研究者によるリーディングス
- 地域でのチャレンジの紹介 東京都武蔵野市の地域実践と政策実践→笹井肇著『介護保険25年』（2026年刊行）→カリスマ職員としての地方公務員の実践の経過報告

# 居住政策への視点

高齢者住宅財団理事長としての仕事（2012～2018）そして包括的居住支援研究

- 住宅政策と社会保障の関係史
- 社会事業の時代は一体的であった
- 住宅と社会保障・福祉の泣き別れ→それでなにが起こったか。施設主義・病院優先
- コミュニティケア（地域ケア）は在宅での生活が前提
- 高齢化にともなう、老人病院・老人ホームと地域居住の困難性
- 住まいと住まい方という地域包括ケアからのものの見方について
- 諸外国の居住政策　とりわけオランダの社会住宅から日本を見直す

オランダなどのホスピスと社会住宅

認知症の人のためのビレッジ

なぜこのようなことが可能なのか

The "dementia village" that's redefining elder care | Yvonne van Amerongen  
<https://www.youtube.com/watch?v=YSZhrxOkBZI>

アムステルダム市にある多機能型社会住宅





The involvement of family and volunteers is essential for the well-being of our clients



The "dementia village" that's redefining elder care | Yvonne van Amerongen

<https://www.youtube.com/watch?v=YSZhrxOkBZI>

日本でもNAGAYA TOWER(鹿児島市) が  
これと同一のコンセプトだが稀な例である。

<https://www.facebook.com/NagayaTower/>

WILLIAM BROUWER + 阿部興治建築研究所 2011.06.20



# 「地域包括ケアを現場で語る」で取り上げた事例をとおして

## ゆきさんの推薦文

日本の土の中から生まれた宝石のような実践の数々。それを座談会という日本生まれの手法も使って歴史的視座から解き明した前代未聞の本。医療や福祉や介護・看護の現場、そして行政の世界で、前例を超えた前例を創ろうとしている方々にとって、必読書です。



人を想い  
地域を耕し  
社会を変える人たちと

地域包括ケアを現場で語る

高橋 紘士 編著

木星舎



ISBN978-4-909317-25-4  
C0036 ¥2700E  
定価 2700円+税



1920036027002



Community and Care

本書で語り合う人・語られる人・語られる仕事  
目次から  
地域包括ケアの見取り図〈在宅医との対話〉太田秀樹  
ふるさとの会の生活支援〈山谷から地域へ〉水田 恵・宮島俊彦  
とも暮らしの可能性〈ホームホスピスからのメッセージ〉市原美穂・園田真理子  
「けま喜楽苑」個室ユニットと認知症ケア〈外山義の遺した仕事〉市川禮子・三浦 研  
NAGAYA TOWERが住まいを変える 堂園晴彦・宮本太郎・堂園春衣  
「抱樸」生活困窮を生み出さない社会へ〈包括的居住支援の提唱〉奥田知志  
「こぶし園」施設を地域に展開する〈小山剛の仕事〉  
三方よし研究会と地域まるごとケア〈近江の国柄〉  
ケアの意味と新たなかたち〈宅老所よりあい、ホームホスピス、あおいけあの実践〉  
御調国保病院の挑戦〈地域包括ケアの創始〉山口 昇  
在宅福祉事業の創始と展開 春日市社協の事業  
包括的支援としてのライフケアシステム〈佐藤智医師の仕事〉  
社会事業の可能性〈同潤会による不良住宅改良事業の構想と展開〉大月敏雄・祐成保

定価 2700円+税

# 地域包括ケアの実践例展開年表

260618

「地域包括ケアを現場で語る」付録の年表から

# 第二次世界大戦以前

内務省社会局 救済事業、社会事業、同潤会による復興住宅、厚生省設置

西暦・和暦	事 項	関連する部・章
1907・M40	内務省地方局有志「田園都市」発刊	Ⅲ・4
1916・T5	後藤新平、内務大臣就任	Ⅲ・4
1920・T9	内務省社会局設置	
1923・T12	9月1日、関東大震災発生	
1924・T13	同潤会設立	Ⅲ・4
1929・S4	救護法制定	Ⅲ・4
1930・S5	猿江裏町復興住宅完成	Ⅲ・4
1931・S6	満州事変勃発	
1938・S13	厚生省設置。厚生省に住宅課設置	Ⅲ・4

# 戦後の展開 高度経済成長から人口高齢化の端緒と先駆的事業の創始

社会福祉事業法による措置制度・老人医療無料化のインパクト・御調モデルの創始。春日社協の展開

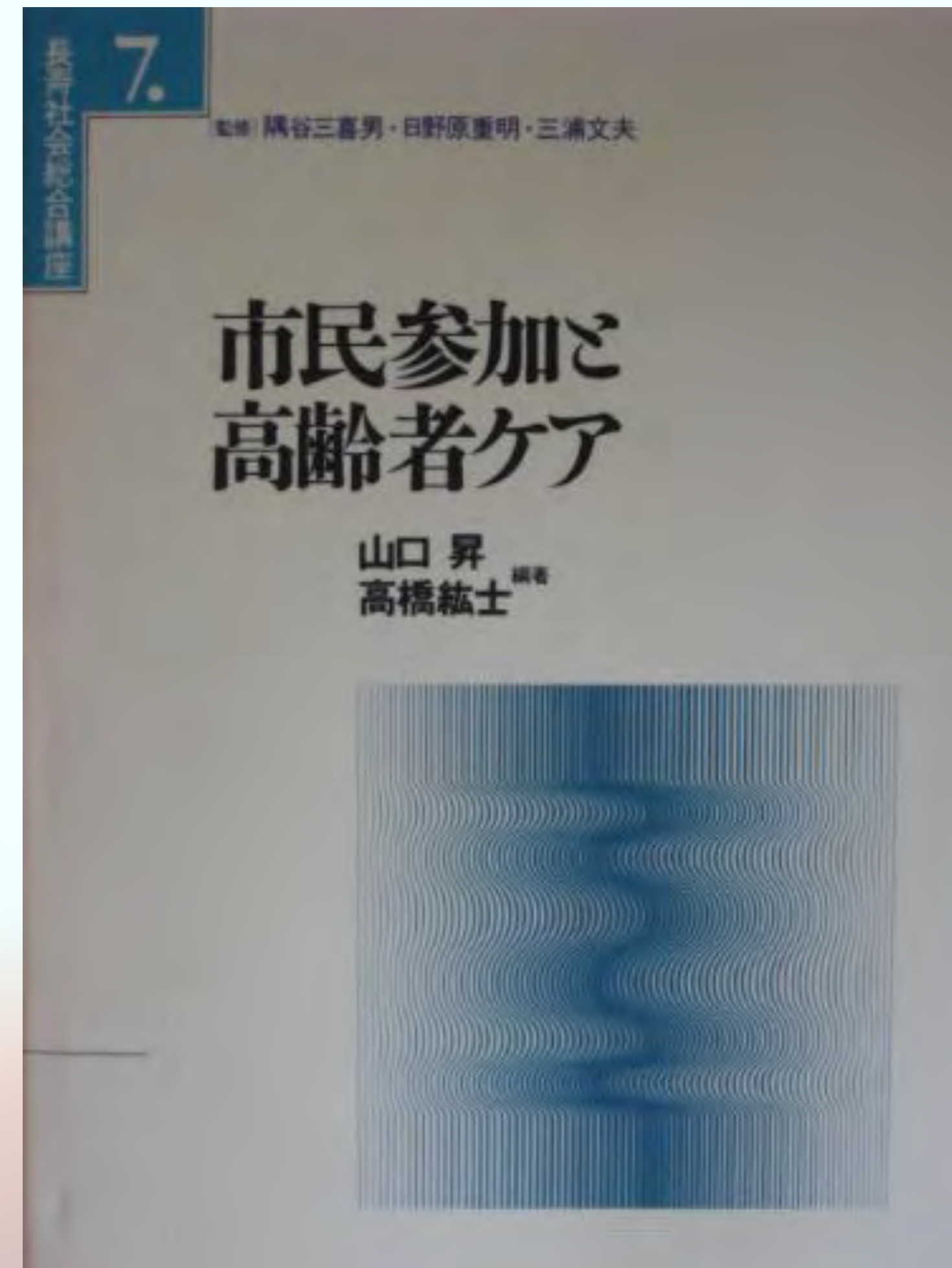
1950・S25	新生活保護法	
1951・S26	社会福祉事業法制定	
1960・S35	春日町（1972年市制施行）社会福祉協議会結成	Ⅲ・2
1966・S41	山口昇、御調国保病院着任	Ⅲ・1
1971・S46	白十字病院（佐藤智院長）が東村山市の委託で訪問看護事業開始	Ⅲ・3
1972・S47	有吉佐和子『恍惚の人』出版。ベストセラーとなる	
1973・S48	老人福祉法改正により、老人医療費無償化	
1974・S74	御調国保病院出前医療開始 ← 後に「実録寝たきり老人ゼロ作戦(1992)として経過出版	Ⅲ・1
1975・S75	本田義信春日市社協会長に専任・老人給食事業開始	Ⅲ・2

ゆきさん著「寝たきり老人のいる国いない国」は1990年に出版（ジャーナリズムが政策に影響を与えた好事例である）

# 山口昇の御調町での寝たきりゼロ作戦を通じるまちづくりの実践から



1992 家の光協会版 後に新版



1993 第一法規出版

# 地域包括医療（ケア）とは

- 地域に**包括医療**を、**社会的要因**を配慮しつつ**継続**して実践し、住民の**QOL**の向上をめざすもの
- **包括医療（ケア）**とは治療（キュア）のみならず保健サービス（健康づくり）、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護サービスのすべてを包含するもので、施設ケアと在宅ケアとの連携及び住民参加のもとに、地域ぐるみの生活・ノーマライゼーションを視野に入れた**全人的医療（ケア）**
- 地域とは単なる Areaではなく  
**Community**を指す

（山口 昇）

山口昇による定義（1980年代）

# 在宅福祉と在宅医療・施設の新機軸

春日モデルの定着・ライフケアシステム・訪問看護の制度化・住民参加型在宅福祉サービス（市民福祉）

1979・S54	春日市社会福祉センター落成	Ⅲ・2
	全国社会福祉協議会「在宅福祉サービスの戦略」発表	
	ライフケアシステム設立総会	Ⅲ・3
1981・S56	春日市社協老人下宿構想（行政の同意得られず難航。自転車振興会の先駆的事業補助で）1983（昭和58）年着工	Ⅲ・2
1982・S57	こぶし園開園。小山剛生活指導員として着任	Ⅱ・1
1983・S58	老人保健法で病院退院患者の訪問看護診療報酬化	
1984・S59	御調国保健康管理ステーション（町と病院の保健医療福祉組織統合）開設	Ⅲ・1
1987・S62	本田義信、在宅福祉領域で初の朝日社会福祉賞受賞	Ⅲ・2



ゆきさんの支持と支援

# 春日市社協の場合

在宅福祉の展開と在宅福祉事業体の可能性

1987年刊行

しあわせへの  
挑戦

春日市社協の  
実践

本田義信・高橋紘士 編著

全国社会福祉協議会

- 春日市社協の事業活動
  - 1960（昭和35）年～1965（昭和40）年
  - 昭和40（1965）年代
  - 昭和45（1970）年代 老人福祉事業へ 毎日食事サービス、拠点整備
  - 昭和50年代後半 老人下宿 老人別荘 住まいと余暇活動・文化活動
- 春日市社協の経営と財政
  - 役職員のあり方
  - 財政 赤い羽根募金を活用・自主財源の観葉j

# 1980年代の動向

ホームレス支援の新展開・福祉八法改正のインパクト・宅老所・医療提供の場としての「居宅」

1988・S63	北九州越冬実行委員会結成	I・5
1990・H2	山谷地域を中心にボランティアサークルふるさとの会創設 1999年に特定非営利活動法人格取得「自立支援センターふるさとの会」となる	I・1
	福祉関係八法改正（地域における福祉、在宅福祉サービスなどの法定化等）	
1991・H3	宅老所「よりあい」が福岡市で活動開始	II・2
1992・H4	訪問看護ステーション制度が老人保健法改正で創設、また、医療法改正で「居宅」を医療提供の場として法定化	

# 介護保険の準備期・神戸淡路震災のインパクト

ボランティア元年・グループホームの導入・在宅医療の先駆・小規模多機能ホーム

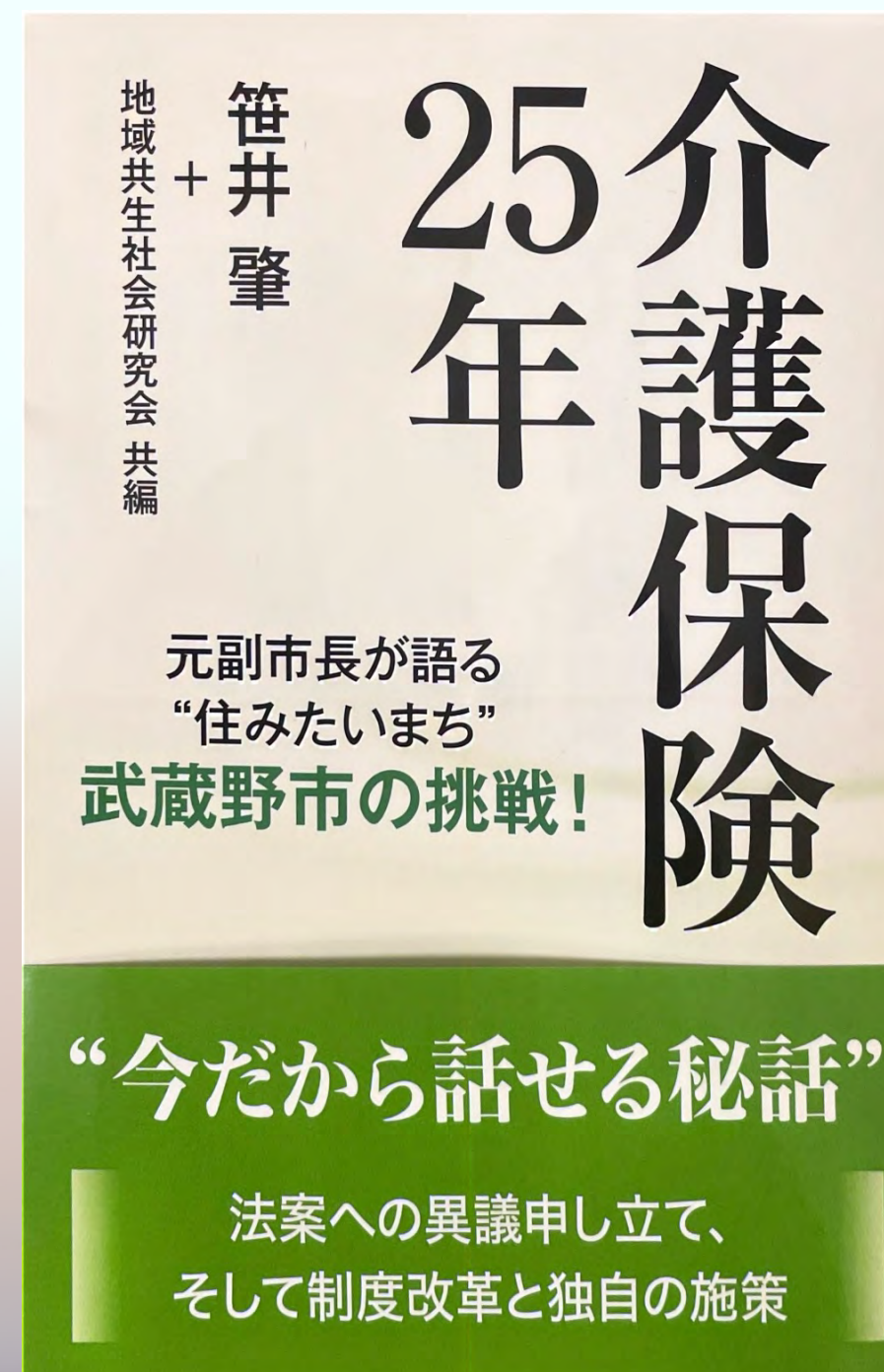
1995・H7	神戸・淡路大震災発生	
1996・H8	こぶし園認知症グループホームモデル事業導入	Ⅱ・1
	白十字診療所から佐藤医師独立、後に互酬会水道橋東口クリニックとして医療法人化。	Ⅲ・3
	堂園メディカルハウス開設	I・4
1997・H9	御調保健福祉センター開設	Ⅲ・1
1998・H10	特定非営利活動促進法でNPO法定化	
1999・H11	川原秀夫が、小規模多機能居宅介護サービスの原型となる小規模多機能ホーム「きなっせ」を熊本市に開設。	

# 介護保険法の成立と展開

ホームホスピス・個室ユニット・ホームレス自立支援・地域包括ケアシステムの政策化

	介護保険法施行・社会福祉法（社会福祉事業法の名称変更と改正）	
2000・H12	ホームホスピス宮崎、特定非営利法人認証	I・2
	特定非営利法人北九州ホームレス支援機構設立	I・5
2001・H13	全個室・ユニットケア型の特養「けま喜楽苑」を兵庫県尼崎市に開設	I・3
2002・H14	ホームレス自立支援法成立、2012（H24）年、2017（H29）年に改正	I・5
	こぶし園サポートセンター三和開設	II・1
2003・H15	高齢者介護研究会（厚労省老健局に設置）が「2015年の高齢者介護」を公表、「地域包括ケアシステム」の構築を提言（2006年からの介護保険制度改革に反映された。また、小規模多機能居宅介護等の地域密着型サービスなど認知症への対応するケアモデルの提案）	
2004・H16	かあさんの家曾師（ホームホスピス第一号）開設	I・2

介護保険導入を軸に地域のケア政策の展開を追う→笹井肇著「介護保険25年～元副市長が語る”住みたい街”武蔵野市の挑戦」が語ること



# 2006年改革・住生活基本法・東日本大震災

エイジングインプレイス・ケア付き住宅の模索（たまゆら火災と復興住宅）

2006・H18	住生活基本法制定（名称変更） 小規模多機能居宅介護が創設	
2007・H19	東近江医療連携ネットワーク研究会発足（「三方よし研究会」の前身）	Ⅱ・2
2008・H20	年越し派遣村設置（リーマンショックによる生活困窮者支援）	I・1・5
2009・H21	群馬県渋川市の静養ホームたまゆら火災	I・2
2011・H23	東日本大震災発生 加藤忠相「あおいけあ」創設	Ⅱ・3

# 様々な先進的実践の登場

施設改革 ユニットケアからこぶし園の地域展開 地域居住（ケア・イン・プレイス）の思想の始まり

ホームレス支援の新規展開を通じてケアつき住まいなどを通じて包括的居住支援へ

ターミナルケアの思想再編と地域が支えること。

生活困窮者自立支援法の意味・ホームホスピスにおける中間支援組織の意義・住宅政策の展開（住宅確保要配慮者）  
 児・者別福祉からごちやませ型へ・大型施設解体（こぶし園モデル）の意味

	生活困窮者自立支援法成立	
2013・H25	NAGAYA TOWER が鹿児島市に開設 高齢者住まい法改正（サービス付き高齢者住宅創設）	I・4
	北九州ホームレス支援機構が特定非営利活動法人「抱樸」に改称	I・5
2014・H26	こぶし園大型特養解体完成。5地域に小規模特養として分散。小規模多機能居宅介護、キッズルーム、居酒屋など併設	II・1
2015・H27	全国ホームホスピス協会設立	I・2
2019・R元	住宅セーフティネット法（通称）改正（居住支援法人制度等）	

# ホームホスピス宮崎の 展開とその普及過程

制度にならない実践の開拓的な意味～ターミナルケアの再解釈と地域づくりへの展開、全国への普及の意味

ホームホスピス宮崎

<https://npo-hhm.jp/>

全国ホームホスピス協議会

<https://homehospice-jp.org/>

# ホームホスピスとは

ホームホスピスの創始者市原美穂による定義 なぜ商標登録マークがついているか

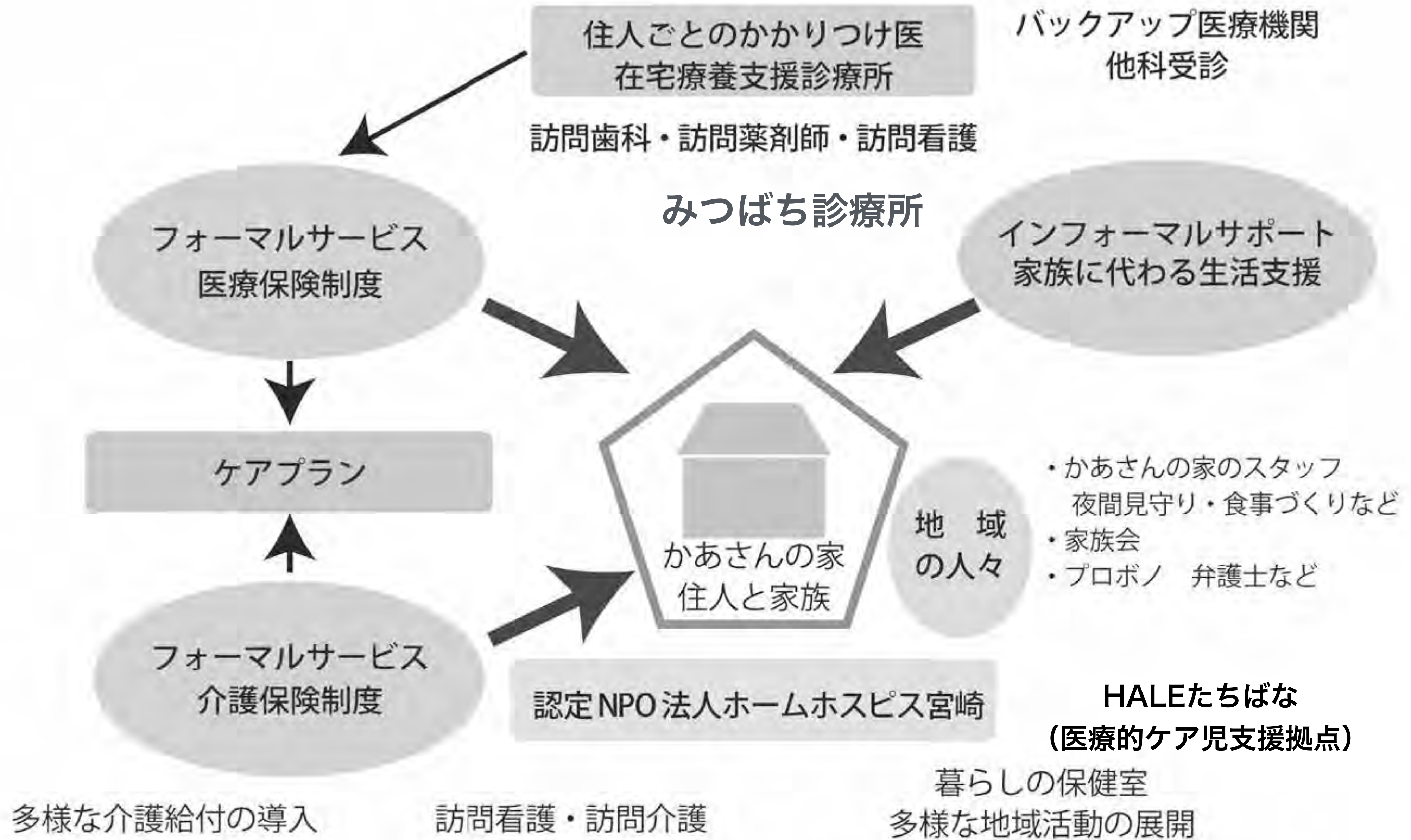
## 新しいケアの形は、ホームホスピス®

- ホーム (home) 家庭・家・故郷・地域
  - ・単に家を意味するものではなく、馴染みの人と共にあり、その人が安らぎを感じる居場所。暮らしがあり、住み慣れた地域にある、もうひとつの「家」
- ホスピス(hospice) もてなすという意味
  - ・建物（病棟）ではなく考え方です。そして患者さんとその家族がケアの対象です。

### ホームホスピスとは・・・

ホスピスケアの理念に沿って、病や障がいがあっても最期の日までその人らしく生きることを支える終の棲家です。

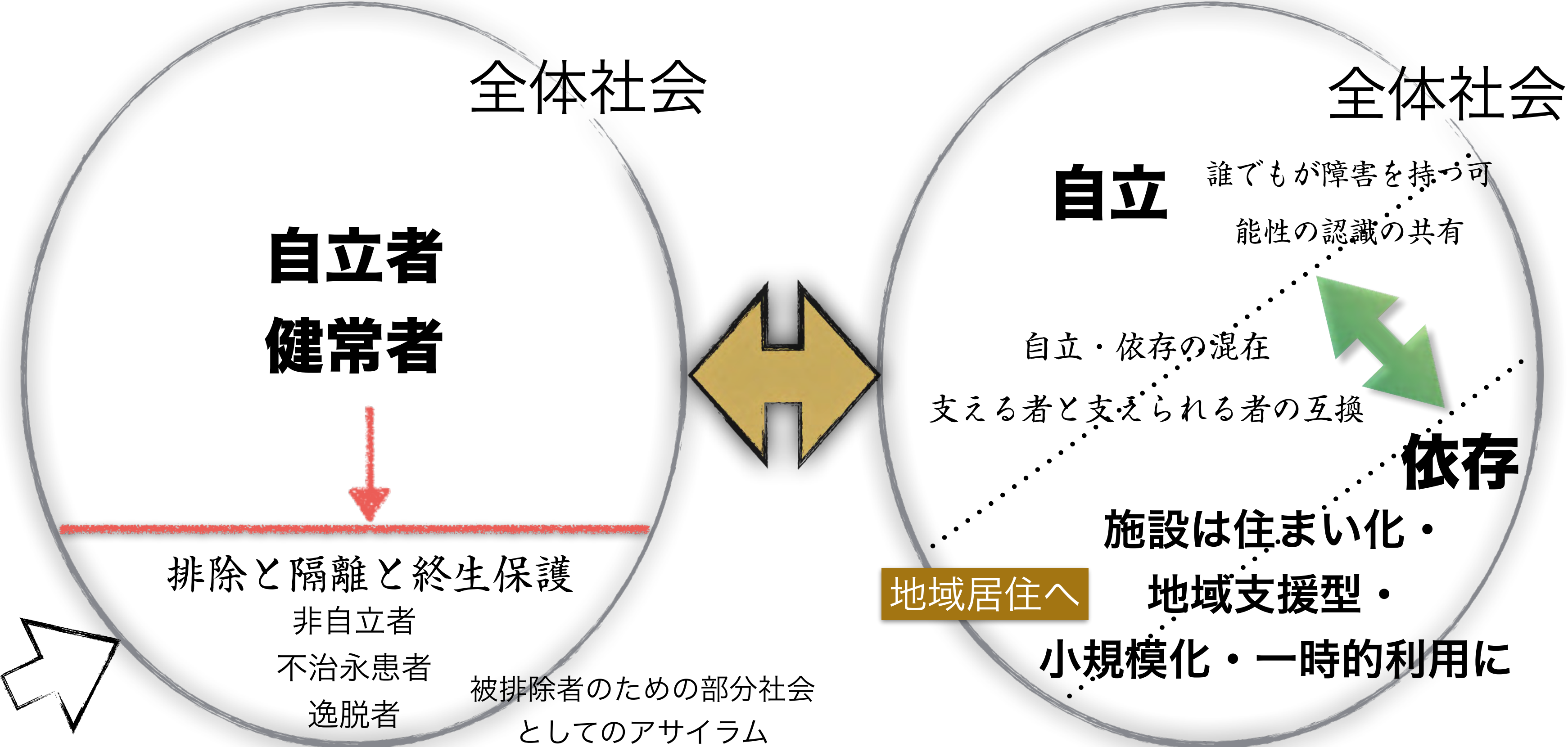




「かあさんの家」の仕組み

まとめにかえて 2つの図

# ケア対象者へのあり方の対立モデル 排除と包摂



放置から保護へ

社会防衛

排除・隔離モデル

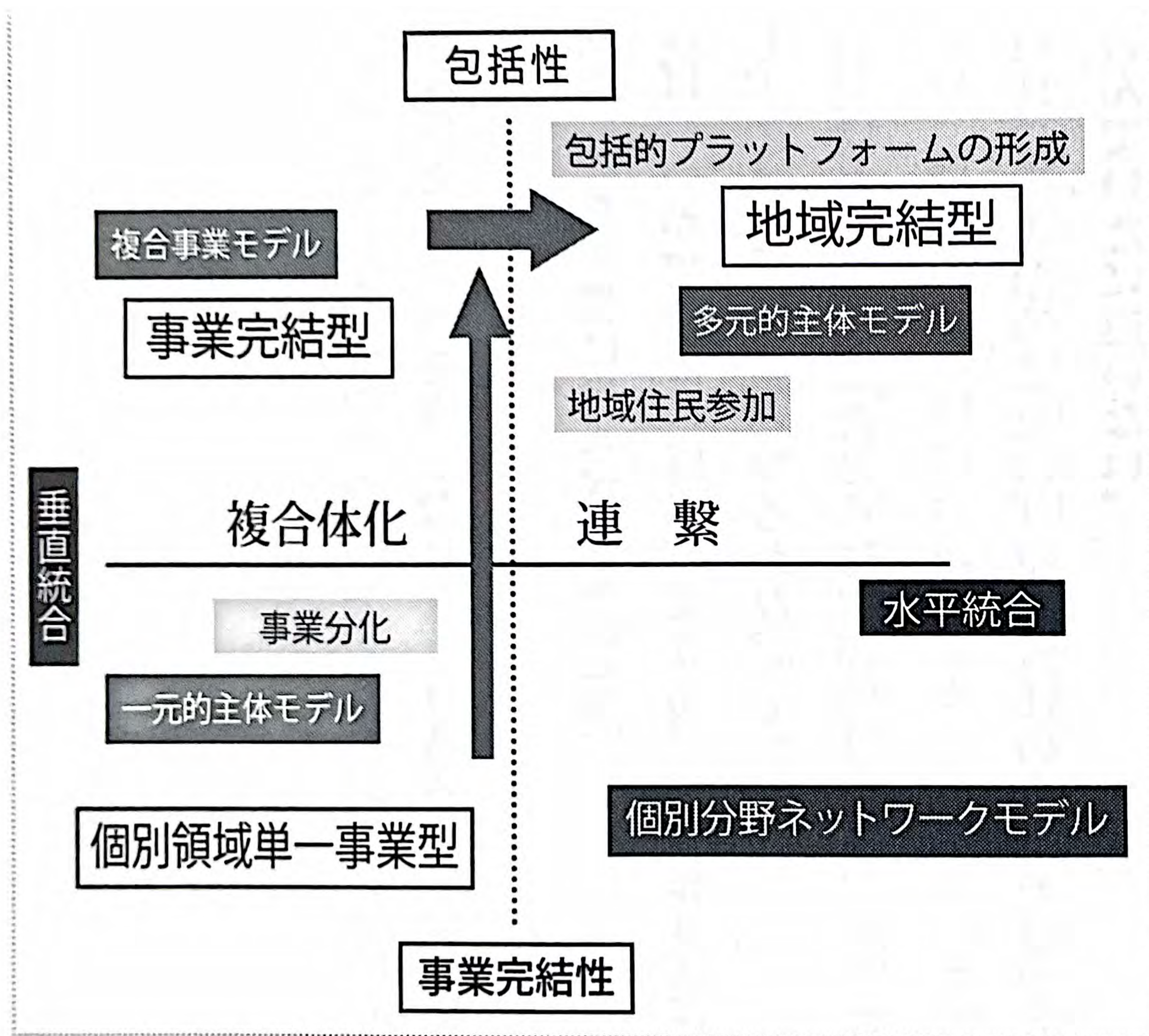
精神科病院・収容型  
施設などの残存  
大型施設指向  
日本ではこの転換が  
不十分である

ノーマライゼーション

コミュニティケア

包摂モデル

高橋紘士作成



高橋作成

地域包括ケアシステムにおける事業体モデル

# 私の活動の紹介

- 高橋紘士の仕事のデータベース（国立情報学研究所のサイト）
  - <https://cir.nii.ac.jp/all?q=高橋紘士>
- Facebook <https://www.facebook.com/htakamac>
- 国立社会保障・人口問題研究所機関誌 社会保障研究での編集者としての基調論文と鼎談
  - ケアの社会政策 <https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikanshi/0101.htm>
- 大塚製薬工場サイト 掲載のRun&Up地域包括ケアシステム 編集委員として（閲覧に際して、登録が必要 無償です。） [https://www.otsukakj.jp/med\\_nutrition/products/run\\_up/interview/](https://www.otsukakj.jp/med_nutrition/products/run_up/interview/)
- 包括的居住支援研究会 <https://www.zenkyokyou.jp/各種事業/調査研究事業/包括的研究会/>